

驚異の大会運営能力

オリエンテーリングは私の愛するすばらしいスポーツです。こんな面白い生涯スポーツを広め、多くの人に楽しんでもらいたいと願っています。しかし現状はマイナースポーツで、大変なエネルギーをかけて大会を開催しても「収支トントンなら OK」という状況だと思えます。

その一方で、オリエンテーリングが日本に入って 40 年。今までに我々は知らぬ間に多くのノウハウを手に入れています。オリエンテーリングの他にない特徴、それはあるときは選手であり、あるときは主催者であるという点だと思えます。そのことからいろいろなことが生まれてきています。

「選手は主催者に絶対迷惑をかけない」、「ごみは出さない」、「許可されなければ車で来ない」。これはオリエンテーリング界では常識です。また細かなクラス分けや事前申込と当日申込の制度、成績速報など、このように我々は大会を運営できるというすばらしい能力を手に入れています。

大会参加者募集要項を作成し、PR する。いろいろな手続きを得て大会を開催し、計時をし、集計する。コースを作り、テープ誘導を行う……。オリエンティアから見れば当たり前のことですが、いわゆるランナー、ランナークラブの人たちにとってはびっくりすることであり、思いもよらぬことなのです。

ランニング大会を開こう！

我々の愛するオリエンテーリングを普及するため我々が今までかかって手に入れた文化で、今ブームのランニング大会を開催して、その収益をオリエンテーリング界に役立てる。これが私の主張したいことです。

今回、愛知県協会が世界選手権のトレイルを使ってトレイルランを開催したことは私としては本当にうれしいことです。日本のオリエンテーリング界、各地の協会にそのような流れができれば本当にうれしいことだと思えます。

オリエンティアの中からは「どうして我々がランナーのために大会を開催

しなければならないのか」と反論が出ると思えます。しかし大会を開催して多くのアスリートが参加してくれることはすなわち、彼ら彼女らに喜びを与えているということなのです。オリエンティアが自分たち身内だけでその文化を楽しんでいるのではなく、ランナーやアドベンチャーの世界など色々なアスリートの世界に自分たちを PR いくことも大きな普及活動になるのではないかと考えています。

「オリエンティアが開催するランニング大会は何か少し違うぞ」「なにかしら気持ちいいぞ」「オリエンテーリングってどんなスポーツなんだろう？」こんな風になればいいのですが……。

ランニング大会の具体例

具体的なことに触れてみたいと思います。昨年 12 月 10 日、第 13 回東山 36 峰マウンテンマラソン大会 (30km) を開催して 870 名の参加者がありました。参加料は 3500 円です。物品販売などもあり総収入 347 万円。ボランティアは京都トリアスロンクラブ員、京都府オリエンテーリング協会他で 150 名です。総支出は 236 万円で剰余金が 110 万円となり、トリアスロンクラブとオリエンテーリング協会にそれぞれ 55 万円ずつ分配しました。

5 月には福井県小浜市から京都市出町柳まで、かつて日本海産物を運んだいわゆる「鯖街道」を走る「鯖街道ウルトラマラソン」を開催しています。A コース 76km、B コース 42km、参加料は 1 万円と 7000 円です。6 月には別の組織でチャリティラン大会というものをやっており、今年で 21 回目となります。これは海外に援助活動をしている NGO 団体に活動資金を援助するための大会です。クラスはフル、ハーフ、10km、5km、3km ですが、どのコースも大人 2000 円、高校生以下 500 円、当日参加 3000 円でやっています。この大会は大会の趣旨に賛同する方が多く、最近の参加者数はずっと 1000 名を越えています。援助金確保が目的なので支出は 30 万円以下に抑え、毎年

3 団体に合計 200 万円ほどの寄付を行っています。はじめたころは人数も少なく剰余金も出ないこともありましたが、最近実績を残しています。

JOAの台所事情

新生 JOA は次々と新しい試みを行い制度的に確実なものを作り始めています。しかしまだ成果をあげるまでには至っていません。かつて大野会長の時代にそれぞれの協会の協力や大野会長の努力によって 2000 万円の基金が作られましたが、JOA の日常的な活動の中で、10 年ほどの間になくなってしまいました。1 年間で 200 万円ほどの経費が必要だということです。これに加え、来年度のインストラクター、ディレクターなどの大幅減少により収入が 160 万円ほど減少すると予想されています。

ランニング大会は時代の流れ

今、私の手元に OSJ (アウトドアスポーツジャパン) 2006 冬号があります。全国約 800 のスポーツ店で無料配布される 14 ページ・カラー A3 の情報誌です。この中に 12 のトレイルランの大会案内とお薦めトレイルコース 8 箇所が掲載されています。富士登山レース、ハセツネカップ、三河高原トレイルランなどです。このようなアドベンチャーレースの流れが動き始めていることが感じられます。その中には山岳連盟主催のマラソン大会もあります。1 日も早くオリエンティアがその組織を生かし、そのノウハウでトレイルランニングを開催するべきです。世間もそれを待っている確信しています。



(久保喜正) 京都府オリエンテーリング協会および京都 OLC 会長。